

アンチドーピング

責任者・コーディネター	創剤学分野 佐塚 泰之 教授		
担当講座・学科(分野)	創剤学分野		
対象学年	4, 5, 6	区分・時間数	講義 9 時間
期 間	前期		
単 位 数	0.5 単位		

・学習方針（講義概要等）

スポーツは、トップアスリートだけでなく、娯楽として、また、健康維持や疾病予防の観点から幅広い年代で親しまれている。しかしながら、よい記録を追及するあまりに、くすりに頼るドーピングが問題となっている。これに対するアンチドーピングの活動は世界的に展開されており、様々な競技会で検査が行われている。しかしながら、スポーツ選手や一般の愛好家はくすりに関する知識が乏しく、特に本邦においては日常的に服用する医薬品によるうっかりドーピングが起きているのが現状である。そこで、くすりの専門家である薬剤師が正確な情報をスポーツ選手に与える必要があり、日本アンチドーピング機構は、薬剤師を対象に公認スポーツファーマシストを認定している。本講義では、薬剤師を目指す薬学部生の立場からスポーツと薬の関わりや知識を学ぶとともに考える。

・教育成果（アウトカム）

スポーツ選手の医薬品に対する認識と現状、スポーツ薬理学への理解、ドーピングコントロールの現場を知ること薬学生の立場からスポーツファーマシストに対する理解を深め、臨床現場にとどまらない薬剤師の役割が認識できる。
(ディプロマ・ポリシー：2,3,4,6)

・到達目標（SBO）

1. スポーツファーマシストの存在と意義を理解できる。（☆）
2. スポーツ薬理学の意義を説明できる。（☆）
3. ドーピングコントロールの役割と現状を説明できる。（☆）
4. スポーツファーマシストとしての活動に関し討議できる。（☆）

・講義日程

(矢) 東 207 2-E 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/15	月	5	創 剤 学 分 野	佐塚 泰之 教授	スポーツファーマシストとは 1. スポーツファーマシストの存在と意義を理解できる。 2. ドーピング及びアンチドーピング活動に関し述べるができる。 事前学習：過去のドーピング違反を1例調べてくる。 事後学習：教科書 p.7～22 を熟読する。

4/22	月	5	創剤学分野	杉山 育美 助教	<p>スポーツ薬理学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ薬理学の意義を説明できる。 2. 平常時と運動時の薬理作用の違いに関し説明できる。 3. 運動時、注意すべき医薬品を列挙できる。 <p>事前学習：薬理学全般に関し復習してくる。</p> <p>事後学習：講義の中で上げたポイントを復習する。</p>
5/13	月	5	りんどう薬局	本田 昭二 講師	<p>ドーピングコントロール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドーピングコントロールの役割と現状を説明できる。 2. ドーピング検査の現状を説明できる。 3. アンチドーピング機構に関し、述べることができる。 <p>事前学習：日本アンチドーピング機構について調べる。</p> <p>事後学習：教科書 p.39～46 を熟読する。</p>
5/27	月	5	バイタルネット 筑波大学附属病院	川目 聖子 薬剤師 金子 宣令 薬剤師	<p>スポーツファーマシストになったきっかけと活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツファーマシストの存在と意義を理解できる。 2. 薬剤師取得後にスポーツファーマシストの資格を取る手順を説明できる。 3. スポーツファーマシストの活動を説明できる。 <p>事前学習：教科書 p.23～38 を読んでおく。</p> <p>事後学習：講義の中で上げたポイントを復習する。</p>
6/3	月	5	創剤学分野	佐塚 泰之 教授 杉山 育美 助教	<p>現場体験 シャペロンとして活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドーピングコントロールの役割と現状を説明できる。 2. ドーピング検査におけるシャペロンの役割を説明できる。 3. ドーピング検査法を説明できる。 <p>事前学習：これまでの内容についてまとめる。</p> <p>事後学習：講義の中で上げたポイントを復習する。</p>
6/10	月	5	創剤学分野	佐塚 泰之 教授 杉山 育美 助教	<p>スポーツファーマシストとして何が できるか、必要か（服薬指導シミュレーション）</p>

					<p>1. スポーツファーマシストとしての活動に関し討議できる。</p> <p>2. スポーツファーマシストとしての活動を想定し、競技別に禁止薬物を列挙できる。</p> <p>3. 処方内容より、競技別に禁止物質が含まれていないかどうかを判断し、疑義照会をするとともに、新たな処方提案ができる。【グループワーク】【プレゼンテーション】</p> <p>事前学習：最新のドーピング違反薬物の概略をまとめる。</p> <p>事後学習：他のグループの発表を確認する。</p>
--	--	--	--	--	---

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	アンチ・ドーピングを通して考える スポーツのフェアとは何かー	(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA) 監修	(公財)日本アンチ・ドーピング機構	2013

・成績評価方法

聴講態度（50%）、グループワーク（50%）より総合的に評価する。

・特記事項・その他

<p>持ち物：第1回及び第6回講義にスマートフォンを持参すること。</p> <p>予習復習のポイント：各回の講義において重要なポイントを明示するので、この点を中心に論理的な復習をすること。各コマにおいて立場の違う観点から講義を行うので、それぞれの立場を理解するよう予習すること。これらの学習には、各コマに対して事前に30分、事後に30分を要する。</p>
